

KIDS SMILE LABO JOURNAL

“キッズスマイルラボジャーナル”

KIDS SMILE LABO が発行するフリーペーパー。普段 SNS でしか見られない保育園の子どもたちの様子や、子育てに関する情報等、最新情報をお届けします。

Vol.16
2022
TAKE FREE



KIDS SMILE LABO の 1 枚。

副園長の森菅さんが選んだ、とっておきの 1 枚を紹介します！

“年齢という枠を超えて”

「があああ！」
大きな口開け声出すふたり それ以外の会話はなし
ひとりはクワガタ ひとりはカブトムシ
頭につけたツノで繋がる
一緒だよという気持ち 楽しいねという気持ち
追いかけて顔を合わせ「があああ！」と言う
極めてシンプルだからこふたりに見えてる景色はたぶん
私たちが見ている景色とは違うのだと思う
同じ景色を見てみなければまずツノをつけること
子どもの世界に飛び込むこと

年齢という枠を超えて顔を見合わせ共に遊ぶ
さまざまなことに心を動かしながら
かけがえのない時間を共に生きている
同じ年齢の人たちだけではなく生活の中で
社会性や協調性、思いやりの心の実をつけ育てている
私たち大人は共に心を動かし楽しみながら
その実が花開くのを待ちましよう

photo & text by morimori

今月のおすすめ note !

かおちゃんのつれづれラボ日記

「学びの時間②」

KIDS SMILE LABO の園内研修第二弾！大人も夢中になる時間でした。

もりもりのわくわくラボ日記

「夏休みを取り戻せ① — 新江ノ島水族館と海 —」

素敵な写真の数々。私はその写真に添えてあるコメントがたまらなく好きでした。

園長 松下かおる



副園長 森菅



続きは note にて →

kidssmilelabo.com

@kidssmilelabo

KIDS SMILE LABO

@kidssmilelabo

@KIDS_SMILE_LABO

● DAICHI ● OOZORA ● MINAMO



溶けゆくなか、 のこるもの



牛乳パックで凍らせた、大きな氷で遊びました。五感をたくさん働かせてほしいという想いがあり、まずカラダの色々な場所で触れてみるよう伝えました。「つめたあーい」と賑やかな声が響きながら、手や足、中にはお腹で触れる子もいながら感触を肌で味わいました。そして、絵の具でペイント。色をのせると紙の上とは違い、色が揺れ動きます。色を重ねれば、またその動きがより感じられます。「この色好きー」自分の好みの色になると嬉しそうなお声。それを聞いて他の子も自分の色と、自分の感覚に着目し始めました。納得いかない表情の子には氷を洗い流すことを提案すると、まっさらになった氷のキャンパスにまた嬉しそうに再度色をのせ始めました。「好き」「嫌い」そんな自分の感覚に気づくこと。そして何度でもトライできること。それもアートの良さだと感じます。その後は塩を渡しました。塩をかけると溶ける速度が速くなります。ツルツルだった表面に小さな穴が開き変化が生まれていきます。「音がなった！」氷の中に稲妻が走るかのようにひびが入りピキッと音が鳴ることを発見した子もいました。ブロック氷の遊びにひと段落した子には、アイスピックで細かくすることを提案すると、またそこから遊びが始まっていきました。最後はかき氷機を登場させ、ふわふわの氷を渡しました。色々な形、感触を味わって欲しいという想いからです。シロップを想像させる容器に色水を入れて出すと、それぞれにしかない色味が誕生していきました。1時間ちょっと、氷遊びは続けました。「この色っておく」最後そう言って終わる子が何人かいました。たくさん遊んだものへの愛着。楽しかった気持ち。そういったものが詰まっているように感じました。昨年も大きな氷と絵の具、塩を出して遊びましたが、今年の方がより集中して遊んでいました。子どもたちの探究力や楽しむ力が成長したこと。砕いた氷や、かいた氷を出したことで遊びの幅が広がったことが合わさって関係したように思います。氷は溶けてなくなりましたが、子どもたちの色々な表情がみられた時間でした。カタチに残るといふことよりも、どれだけ感じたか、どれだけ心が動いたか、そんなことがどれだけ残るのかを大事に。これからも一緒に過ごしていきたいと思っています。

文ちなちゃん

KIDS SMILE LABO CLASS NEWS

9 September

● NOBANA

心地良い遊び

桜広場にある大きな砂の山。サラサラとした感触に子どもたちの心は掴まれています。「くつ、ぬいでもいい？」と子どもたちは裸足になって遊び始め、掘ってみたり、山の上から駆け降りてみたりと楽しんでいます。陽に当たった温かい砂を手やスコップで掘り進めていくと冷たい砂が。「なんかつめたい〜」「きもちい〜」と手足の先から冷んやりとした心地良い感触に出会いました。

熊野児童遊園にある砂場での出来事。職員が山を作り、山頂から水を流すと砂を掘った穴に水が溜まり湖のようになりました。思わず手足を入れてパシャパシャと楽しそうに跳ね、そんな友達の様子を見て、僕も、私もとチャブチャブ！気がつけばみんな泥んこだけどそんなことを気にしないのが LABO の子。お尻からポチャン！！「おんせんみたい〜」とにっこり嬉しそうない表情。「こんどはねっころがってみようかな〜」と寝転び頭まで泥んこ！温泉に入ったあとはジュースを作って飲んでリフレッシュしたのでした。

体力がついてきたのばなさん。最近はバギーに乗らず往復歩いて散歩に行くことが増えています。道中で「たのしかったね〜」「またやりたいな〜」と話す子どもたちを見て、これからどんな風に遊びを広げて楽しんでいくのか。無限の可能性と成長にわくわくしています。

文みーちゃん



SOYOKAZE KOMOREBI

ぼくたち、わたしたちのごはんのじかん。

こもれびの秋。食欲の秋。



3人の子どもたちが煮野菜を卒業し、完了食へと移行しました。調理さんが作ってくれた美味しい給食を目の前にすると「美味しそう！」と目をキラキラさせて、あっという間に食べています。気に入ったものは、おかわりちょうだい、とお皿を差し出してにこっと微笑んでアピールしています。何度も何度もおかわりをするので、先日は一口サイズのおにぎりを6個おかわりした子もいましたよ。

煮野菜を食べている2人は煮野菜を卒業した友達をみて、なんだか違うものを食べてるなあと不思議そうな顔をしています。そんな2人も軟飯からごはん、煮野菜だけではなく副菜も追加してもらうなど、ステップアップしています。2人のお気に入りの副菜はかぼちゃの煮物。これが出てくると「だっだ！」と声をあげておかわりの嵐です。からっぽになったお鍋をみせて「おかわりなくなっちゃったよ」と話すと、もっと食べたかったよと唇を尖らせて残念そうな表情をしています。口の周りがオレンジ色に染まっているのはご愛嬌。

新しく入ってきた子は、手掴み離乳食に挑戦中。初日は手で触るのもおっかなびっくりでしたが、煮野菜を食べ慣れている2人の様子を見て、こーやって食べるのかと真似をしています。日が経つにつれて、自分で煮野菜を掴んで食べるのも上手になってきました。一口食べるごとに、美味しいとにこにこしている姿がとても可愛らしいです。こもれびの子どもたちの食欲は底知れず、美味しく楽しく、食事の時間を過ごしてほしいと思います。 文しおちゃん

自我爆発のくいしんぼうたち

気候が良くなり戸外に出ることが増えてくると、帰り道にはペコペコの様子の子どもたち。

調理さんが「ご飯できたよ～」と声を掛けにきてくれると、「ごはんたべるのー！！」と待っていましたとばかりに扉の方へと向かっています。

待ちに待った給食は、食べ始めると同時に好きな物から手を伸ばし、「おいしいね」と穏やかな時間が流れ始めます。スプーンを使うことも上手になってきて夢中に食べ始めます。・・・が、それも食べ始めて5分ほど。

好きな物だけ食べると、もっと食べたい！とお皿を突き出しおかわりの嵐。(嫌いなものはこっそり汁物に隠したり、トレーに避けたりしていますよ)

座って居られず立ち歩いてみたり、汁物をトレーにひっくり返して遊び始めることも。

0歳児の時の椅子に座り夢中に食べていたあの頃の姿から、最近は自我も芽生えてそれぞれが一生懸命に大人に自分の気持ちを伝えてくれます。

そんな自由人たちの姿に「どうしたらいいものか...」と悩むこともありますが、そんな時にはゆっくりと話を聞きながら「どうしたいかの選択」を子どもたちにしてもらうこともあります。そして、とにかく一番大切なことは『楽しく食事を食べること！』なので、無理に食べるよう促すことはせずに、そっと今の子どもたちの気持ちに向き合っているところです。

未だに続くコロナ禍の今。保育者も子ども達と一緒に「おいしいね」と給食を食べられるときが来るのが待ち遠しい限りです。

ぜひご家庭ではお子さまとの食事の時間を一緒に楽しんでくださいね！ 文あづあづ



KIDS
SMILE LABO
KITCHEN

Vol. 06

メッセージ付きのお野菜便

少しずつ秋が近づき、LABOのおやつにも『焼き芋』を提供しています。

焼き芋のお芋は厚木の農家さんから届いたさつま芋を使用しています。

ある日、農家さんから届いた段ボールを開けるとそこには手書きのメッセージがびっしりと書かれていました。中にはおまけのピーマンと茄子も添えられて。

その段ボールごと、子どもたちの所へもっていくと、字は読めなくてもお野菜に興味津々な子、段ボールに書かれた文字を大人が読み、それを熱心に聞く子、それぞれでしたが、段ボールに入ったお野菜便にみんな興味を示してくれました。

そして今回は、ねっとりスイーツのような甘い焼き芋の作り方で農家さんから教えていただき、給食でも実践しました。

甘さがしっかりとあり、スイートポテトのような焼き芋が出来上がり、子ども達もよく食べていました。

ねっとり焼き芋レシピ

【作り方】

- ①さつま芋を皮ごとよく洗い、串が通るくらいまで蒸す。(レンジ調理でも可)
- ②串が通ったら、アルミホイルでさつま芋を1つずつ包み、200～220℃のオーブンで30～40分焼く。(トースターでも可)

蒸してから、オーブンで焼くことで中はねっとり、外側は少しパリッとして皮まで美味しく食べられる焼き芋が出来上がります。子どもたちにも大人気な焼き芋、ご家庭でも是非お試しください。



KIDS SMILE LABO KITCHEN

保育園KIDS SMILE LABOで毎日子どもたちに提供している給食は厚木で育った旬の野菜、無添加調味料を使用して安心安全に、そして見て美しい食べて美味しい給食を2343FOODLABO監修のもと、調理をしています。



Instagramもぜひご覧下さい